

方法が色々あるが小學校の裁縫は、本科に於ける基礎を授けるものであるから統一がなければ幾多の弊を生ずる。その重なる弊は次の如きものである。

1 生徒の轉校 教師の異動、の度に無駄な時間と努力とを費し、且その教授と學習とを複雑にし、豫定の通り進めることが出来ぬ。

2 一校内 一町村内、に於てその指導が異れば、兒童はその眞偽に迷ひ、教師は相互研究の便を得ず且つ感情を損ふことがある。

3 本科の向上發展を期するにも、家庭との聯絡を密接にするにも統一されてゐた方が都合がよい。

(2)統一を圖る方法。

1 小にしては一都市、大にしては全國的に本科教師が會合して、本科教授に對する方針及方法を研究し發表してその統一を圖ること。

2 適當なる教科書を選定してその使用を統一すること。

3 各流派の長短を明にし公平なる立場よりよき方法を研究してその統一を圖ること。

こと。

59 裁縫科の教授に於てメートル尺の使用に早く慣れしめんとするには如何なる取り扱ひを要するか各自の意見を詳記せよ (千葉縣)

メートル法に早く慣れしむるには鯨尺を全く廢し、全然メートル法に依らしめることがよい。即ち尺度も全部メートル尺にして鯨尺は一本も教室内に止めず、一日も早く鯨尺から遠かることが捷徑である。然るに稍々もするとメートルの換算表を用ひたり、尺度もメートル尺と鯨尺とを半々に刻みたるを用ひしめることがあるが、之は却つて兩者の混用に迷はしめるものである。

それ故に教師は自ら進んでメートル尺に依つて教授し兒童にはその使用の機會を出來るだけ多くしメートル尺に親ませる様にすべきである。

一 裁縫科に於けるメートル法實施につき教授上注意すべき點を述べよ。

第十五章 裁縫科の設備

60 小學校裁縫教授上必要な設備を擧げよ (奈良縣神奈川縣)

裁縫教授上必要な設備は裁縫教室と教具とである。

(一) 裁縫教室。

- 1 裁縫教室は教授と管理と衛生とに適するものたること。
- 2 その廣さは五間半に六間、又は七間に七間が理想的で、標本戸棚、生徒用戸棚、或はミシンを置いて尚豫裕ある位が望ましい。
- 3 裁縫教室の隣に、整理室兼用ミシン室を設けて仕上げ、綿入、ミシン練習等に使用させたい。
- 4 机に腰掛を用ひるのと、座るのと二つあるが、腰掛を用ふるのがよい。管理

衛生及教授上から見て。

(二) 教具。

- 5 欄間天窓を設けて換氣法を十分に於て適當の溫度を保つ様にしたたい。
- 1 黑板 高さは一米半、長さは二間位で艶消なのがよい。
- 2 教師用机、高さ一米、長さ一八二種、幅九一種、抽出を設け、尙傾斜面のそなへをなすこと。
- 3 教師用腰掛。
- 4 生徒用机、高さは兒童の身長に適せしむるため大中小の三種以上をつくること、幅及丈、本裁の標付シールに十分なる様にする。従つて一脚を二人で使用する様になる。

- 5 生徒用腰掛、高さは兒童に適する様にし、一人掛にすること。
- 6 戸棚 教師用、兒童用、標本用、備品用各一個宛、縦横一間、奥行五十種位がよい。

7 其他 掛圖、標本、示範用實物代用布、火鉢、火箸、炭取り、十能或は電氣瓦斯裝置、掛圖掛、衣紋掛、火熨斗及炬燵、火熨斗蒲團、炬燵板、試シ臺、尺度及尺度箱、霧吹、ミシン、學習用具、羅紗鉢、廢針箱、布屑、糸屑、綿屑入等教授に差支へない様に設備すること。

附 錄

小學校裁 縫科教員 檢定試驗問題集

甲 筆記試驗問題集

乙 實地試驗問題集

甲 筆記試験問題集

第一章 小 裁

第一節 一つ身着物

- 一 用布並幅三米八十糎にて潤袖一つ身を裁つに袖丈五十糎とせば身丈何程となるか。其の裁ち方を圖解し裁切寸法を記入せよ。(青森縣)
 - 二 幅七十五糎の布にて元祿袖一つ身の裁ち方及び積り方算式を問ふ。寸法は普通とす。(静岡縣)
 - 三 一つ身單衣筒袖及潤袖(袖口付)の標付方を圖解せよ。(京都府)
- ### 第二節 一つ身袖無羽織及被布
- 一 一つ身袖無羽織の普通仕立寸法を問ふ。併せて之が表一枚分の裁ち方積り方を記入せよ。但し用布は並幅物二米十糎を要するものとす。(静岡縣)
 - 二 幅一尺長さ五尺五寸の布を以て袖無被布の裁ち方を圖解し寸法を記入せよ。(愛知縣)
- ### 第三節 三つ身羽織
- 一 幅二尺長さ五尺五寸の片面物にて小裁羽織の裁ち方並に裁ち切り寸法を記せ。(和歌山縣)

二 用布長さ四米三十七纏幅三十八纏の片面物を以て三つ身裁元祿袖の羽織表一枚を裁つに袖丈の裁切りを二十九纏とすれば身丈は何程となるか、積り方の算式裁ち方圖を記し圖中に各部名稱と寸法を記入せよ。(東京府)

第二章 中 裁

第一節 四つ身着物

- 一 幅二尺長さ八尺の用布にて中裁元祿袖の裁ち方積り方を示せ。但し裁切寸法袖丈九寸 身丈三尺一寸とす。(岩手縣)
- 二 二尺幅メリンスの四つ身揃み衿の裁ち方及裁切寸法を問ふ。但し袖丈は袂袖のこと。更に之に要する胴裏の總尺裾廻布大幅二尺として算出せよ。(島根縣)
- 三 一尺幅メリンスにて四つ身裾廻二種の裁ち方を圖解せよ。(愛知縣)

第二節 四つ身羽織

- 一 用布モスリン大幅物二米八十五纏を以て中裁羽織元祿袖の裁ち方積り方を記せ。但し圖解中へ裁切寸法を記入せよ。(富山縣)
- 二 二尺幅七尺五寸の布を以て十二三歳用の羽織の表を裁つべし。裁ち方圖を示し各部の名稱寸法積り方を記せ。(高知縣)

法積り方を記せ。(高知縣)

三 表用布並幅にて五米六十八纏(一丈五尺)あり之にて四つ身衿羽織を裁んとす裏用布何程を要するか。但し仕立上寸法を定めて圖解すべし。(臺灣)

第三章 腰揚及肩揚

一 四つ身單衣の腰揚肩揚の仕方を問ふ。(山梨縣、愛知縣)

第三章 本 裁

第一節 本裁着物

- 一 本裁男物單衣の裁ち方を知れるだけ記せ(各部寸法を記入せよ)(北海道)
- 二 本裁女物單衣仕立上寸法をメートルにて記せ。(群馬縣)
- 三 長さ十米半の反物にて本裁女物單衣(鉤衿)の裁ち方積り方を記し圖中に寸法を記入せよ。袖丈は仕立上六十纏とす。(東京府)

四 幅七十二纏長さ五米五十四纏の布にて本裁女物單衣を裁つべし。但し裁切身丈一米四十八纏。(京都府)

五 二尺幅セル地一丈四尺五寸を以て本裁女物單衣を裁つべし。但し裁切りは普通寸法とす。

(長野縣)

六 並幅十米九十纏の反物にて棒衿を裁んとす袖丈裁切寸法六十纏とせば身丈何程となるか。圖解算式を記入すべし。(石川縣)

七 片面物並幅二丈七尺四寸にて本裁單衣を鈎衿裁とし尙共衿を十分に取らんとするには、如何なる方法によるべきか。但し袖丈一尺六寸出來上り身丈三尺八寸五分出來上りとす。(鳥取縣)

八 用布八尺八寸を以て男子大人物簡單なる着物を作らんとするには如何なる裁ち方になるか但し袖は筒袖。(和歌山縣)

九 用布並幅長さ十米六十纏にて本裁女物單衣を裁たんとす。袖丈六十二纏 鈎下九十一纏とせば身丈何程となるか其の裁ち方圖を示し裁切寸法を記入せよ。併せて公式を述べよ。(青森縣)

十 並幅物(三十六纏以上あるもの)にて女物單衣を最も經濟的に裁縫する方法を問ふ右裁ち方積り方を記して縫方の要點を明記せよ。(愛媛縣)

十一 本裁男物仕立上寸法をメートルにて記せ。(山形縣、静岡縣)

十二 大幅物七十六纏のセルを以て本裁男物單衣の裁ち方積り方を記せ。但し袖丈裁切五十六纏身丈裁切一米五十纏として總用布何程を要するか。裁ち方圖を示し各部の寸法を記入せよ。

(静岡縣)

十三 大幅(一尺八寸五分)長さ一丈八寸の布を以て本裁女物單衣の裁ち方を圖解せよ。(静岡縣)

十四 幅一尺二寸(四十五纏)長さ二丈三尺(八米七十一纏)の用布にて本裁女單衣の裁ち方圖及積り方を記せ但し裁切袖丈一尺七寸五分(六十六纏)(鹿兒島縣)

十五 表身丈一米四十八纏(三尺九寸)袖丈五十六纏(一尺五寸)裾廻丈五十纏(一尺三寸二分)あり之に要する胴裏の積り方を問ふ。(臺灣)

十六 並幅一米にて女綿入り表を裁つには袖丈六十四纏衿下り二十纏として棒衿裁とせば身丈何程となるか。尙、一纏胴接の縫込六纏。裾廻の高さ五十纏。竖襟丈九十五纏衿先二十纏として胴裏裾廻布を計算せよ。(香川縣)

十七 大幅(二尺)メリンス三尺九寸を以て本裁女物裾廻の裁ち方。(愛知縣)

十八 裾廻總丈三米七十八纏及三米四十纏の場合に於て袖口共の裾廻の裁ち方を圖解し各部の名稱並に裁切寸法を記せ。但し竖襟丈は何れも九十四纏として計算せよ。(奈良縣)

十九 左の寸法に裁切りたる表地あり今裾廻布七十五纏ありとせば胴裏何程を求めて可なるや積り方及裾廻の裁ち方を記せ。(山形縣)

表裁切寸法 袖丈一尺五寸五分 身丈三尺九寸五分 衽丈三尺四寸五分 袴丈四尺八寸。

第二節 本重 比翼及無垢

- 一 女本裁單衣本重を調製せんとす左の事項を説明すべし。但し年齢二十歳前後とす。(山口縣)
- (イ)地質 (ロ)積り方算法 (ハ)裁ち方の圖解 (ニ)縫方の順序。
- 二 一尺二寸幅四丈二尺六寸の布を以て上着無垢一枚下着廻り無垢一枚を裁たんとす。其の裁ち方を圖解し各部の寸法名稱を詳細に記入し尙積り方公式をも記せ。(但し裁切袖丈一尺六寸五分 身丈四尺とす)(新潟縣)
- 三 並幅縮緬を以て本裁女物上着無垢一枚と下着廻り無垢一枚とを裁ち合はし圖中に寸法を記入し別に總用布の積り方を示すべし。(愛媛縣)
- 四 左記の布を以て本裁女物の比翼を作らんとする着用に至るまでの工程を列記し尙裁ち方積り方を記せ。上着下着廻り縮緬(小濱縮緬) 胴裏(紅絹)(愛知縣)
- 五 幅一尺六寸の布を以て大人女服無垢の裁ち方を記せ。但し寸法は女並 裾廻の高さ一尺六寸 堅襖の高さ二尺五寸とせば用布何程となるか、裁ち方圖記入のこと。(愛知縣)
- 六 並幅一丈三尺の用布にて附比翼表を裁つべし。(京都府)

- 七 大幅(二尺)メリンス長さ一丈一尺にて下着廻無垢一枚を裁たんとす如何なる裁ち方に依るべきか。之れを圖解し各部の寸法を記せ。(東京府)
- 八 女小袖二枚重下着寸法の詰め方を問ふ。尙左の場合に於ける寸法の加減をも記せ。垂れ易いものと垂れないものとを重ねた場合即ち上着黒縮緬、下着白羽二重。(奈良縣)
- 九 羽二重の二枚重を作るに下着は上着より何分詰るか。(愛知縣)
- 十 幅一尺七寸五分長さ二丈の布にて女服無垢一枚の裁ち方を圖解し各部の名稱寸法及び積り方を記せ。(栃木縣)

第三節 拾羽織及綿の羽織

- 一 羽織を仕立つるに就いて長着と異なる點を擧げ其の技術上特に注意すべき點を記せ。(滋賀縣)
- 二 大幅物五米二十五纏(一丈四尺)を以て本裁女拾羽織表の裁ち方を示し並幅物にて其れに要する裏地總丈を求めよ。
- 但し仕立上袖丈五十三纏、身丈は一米一纏、右裏表共に裁ち方を圖解して各部に名稱寸法を記入し積り方を示せ。(三重縣)

- 三 本裁女拾羽織を裁つに表用布十一米にして仕立上り袖丈六十纏、身丈一米の時は胴裏何程を

要するか。但し表裏の裁ち方を圖解し積り方を記せ。(藤本縣)
 四 出来上り袖丈一尺五寸、身丈二尺六寸の袷羽織を仕立つるに表用布二丈八尺ありとせば裏用布何程を要するか。(秋田縣)

五 一尺七寸幅の縮幅を以て女綿入羽織を裁縫するに袖丈一尺七寸、身丈二尺六寸の出来上りにせば用布何程を要するか、裁ち方圖をも記せ。(愛知縣)

六 並幅長さ十一米の布を以て左の寸法に仕上ぐべき本裁男物羽織の裁ち方を圖解し各部の積り方及裏地用布の積り方算式を問ふ。

仕立上寸法、袖丈五十三寸、身丈一米、其他普通。(京都府)

七 並幅二丈九尺の用布にて女物綿入羽織を裁つに袖丈一尺五寸、身丈二尺五寸の出来上りとせば裏地何程を要するか、其の積り方裁ち方を記せ。(長野縣)

第四節 單衣羽織

一 二尺幅セル地にて男物羽織の裁ち方、仕立上身丈二尺七寸五分(一米五寸)袖丈一尺四寸五分(五十五寸)に仕立つるには用布何程を要するか裁ち方圖を示し各部名稱寸法を記入し積り方公式をも記入すべし。(滋賀縣)

二 並幅一反(九米九十六寸)の布を以て本裁男物單衣羽織を裁つに裁切袖丈五十六寸、仕立上身丈一米七寸とせば裁切身丈及袖口の裁切寸法何程か。(奈良縣)

三 並幅物二丈六尺七寸の布にて本裁男物單衣羽織の裁ち方を圖解し寸法を記入せよ、但し仕立上身丈二尺七寸、袖丈一尺四寸。(群馬縣、東京府)

四 明石地一反を以て男單衣羽織を調製せんとす。其の裁ち方積り方を記し縫ひ方に於て留意すべき點を記すべし。(山口縣)

五 並幅長さ九米八十寸で本裁男單衣羽織を裁ち各部に裁切寸法を入れなさい(但し裁切袖丈を五十七寸とす)。(秋田縣)

六 並幅九米七十二寸の單衣羽織地を以て男單衣羽織の裁ち方を圖解せよ。但し出来上り身丈一米二寸袖丈五十四寸。(長野縣)

七 幅二尺四寸長さ九尺五寸五分(片面物)の布にて男單衣羽織の裁ち方を圖解し各部の名稱寸法及積り方を記せ。(栃木縣)

八 並幅長さ九米八十四寸八四(二丈六尺)の用布にて男單衣羽織を裁つに袖丈五十六寸八二(一尺五寸)の裁切とせば身丈及袖丈何程か。(奈良縣)

- 九 並幅長さ九米七十二纏（二丈五尺六寸）の布を以て本裁男單衣羽織の裁ち方圖及裁切寸法を記せ、但し袖丈出來上り五十五纏。後身丈出來上り一米二纏。（山口縣）
- 十 羽織地一反二丈六尺五寸を以て本裁男物單衣羽織を裁んとす。裁ち方を圖解し積り方及算式を記せ但し仕立上寸法袖丈一尺四寸、身丈二尺七寸。（山形縣）
- 十一 並幅長さ二丈五尺八寸の用布にて男單衣羽織を裁んとす。袖丈一尺五寸裁切りとせば身丈袖丈何程となるか圖解算式を記すべし、但し仕立上身丈二尺七寸。（石川縣）
- 十二 大幅十米七十五纏のセル地を以て男單衣羽織一枚を裁んとす。裁ち方圖を示し裁切り寸法を記入せよ。但し仕立上りは普通寸法とす。單衣羽織の裁ち方に於ける襦の補ひ寸法と袖丈の求め方を詳述せよ。（福岡縣）
- 十三 並幅二丈七尺四寸五分の布にて本裁女物單衣羽織を裁んとするに布の元端より一丈二寸入りたる幅の中央に二寸大位の織疵あり之を全く除きて裁つには如何になすべきか圖解せよ。上り寸法身丈二尺六寸五分、袖丈一尺六寸。（千葉縣）
- 十四 並幅長さ十一米の縮縮縞を以て本裁女物單衣羽織を裁んとす。袖丈上り六十五纏、身丈上り一米とせば裁切身丈何程となるか裁ち方圖及び積り方を示し圖中に寸法を記入せよ。（静岡縣）

第四章 各種裁ち合せ

第一節 小裁中裁

- 一 並幅長さ九米十纏の片面物にて濁袖一つ身三つ身の裁ち方圖を示し裁切寸法を記入すべし。但し一つ身袖丈五十一纏、三つ身袖丈五十三纏。（青森縣）
- 二 幅二尺長さ一丈三尺六寸の布にて四つ身及一つ身を裁つべし。（京都府）
- 三 メリンス大幅物を以て四五歳女兒元祿袖の上一揃を最も經濟的に裁ち合せんとす。圖中に名稱寸法を記入せよ。（福岡縣）
- 四 友禪メリンス大幅八尺の布を用ひて大振一つ身元祿袖長着及び一つ身袖無袖布各表一枚宛を裁ち合せんとす各部如何なる寸法に依るべきか、圖解して寸法を記入せよ。但し仕立上寸法、被布身丈一尺六寸長着袖丈八寸と認む。（東京府）
- 五 大幅一丈一尺五寸の綿セルを以て男兒三歳と六歳との單衣の裁ち方を記せ。（静岡縣）
- 六 幅一尺長さ二丈一尺五寸の片面物にて三つ身單衣と三つ身羽織の裁ち方を圖解し各部寸法を記入せよ。但し袖丈六寸五分二枚共筒袖。（愛知縣）
- 七 木綿幅二丈の布を以て一つ身筒袖及三つ身筒袖の裁ち方及積り方。（愛知縣）

- 八 中幅反物縮幅を以て七八歳女児用綿入表二枚を裁ち合せよ。(愛知県)
- 九 並幅反物(一尺)三丈を以て十二歳女児用袷表側一枚と二三歳女児用綿入表側一枚とを裁ち合せんとす裁ち方を圖解し寸法を明記すべし。但し二枚共元祿袖、半幅衽とす。(愛知県)
- 十 大幅一丈三尺五寸の女唄メリンスを以て五六歳用羽織七八歳用長著各一枚を裁ち合せよ。袖は元祿袖とす。(美濃縣)
- 十一 英ネル一丈四尺を以て十四五歳兒及三四歳兒の衣服を調製せんとす。如何なる裁ち方によるか。裁ち方及各部寸法を明記せよ。但し袖は元祿袖とす。(徳島縣)
- 十二 幅二尺長さ三尺六寸にて四つ身及一つ身を裁つべし。(京都府)
- 十三 一匹の布を以て四つ身一枚と三つ身三枚との裁ち方及積り方を記せ。(愛知県)
- 十四 一尺二寸幅の片面物を以て三つ身四つ身の裁ち合せ三つ身袖丈、一尺五寸、身丈二尺六寸四つ身袖丈九寸、身丈三尺とす。(愛知県)

第二節 本 裁

- 一 セル大幅一匹の布を以て本裁男物單衣の着物と羽織とを裁ち合すには如何にするか。之を圖解し寸法を記入せよ。(静岡縣)

- 二 幅三尺三寸の布を以て本裁女服一枚と三つ身相當の衣服とを裁ち合するに其の用布何尺を要するか。裁ち方及寸法を記入せよ。但し袖丈一尺六寸。(愛知県)

第五章 長 襦 袢

第一節 男物長襦袢

- 一 並幅メリンスで仕上げ袖丈一尺四寸身丈三尺六寸の男物長襦袢を仕立つるには用布幾尺入用か圖解せよ。(秋田縣)

第二節 女物長襦袢

- 一 一尺七寸幅の縮幅を以て女長襦袢の裁ち方積り方を記せ。(愛知県)
- 二 大幅メリンス一丈五寸五分にて本裁女物長襦袢の裁ち方を圖解せよ。但し前袖み五分。(愛知県)
- 三 幅七十五釐長さ四米を以て本裁女物長襦袢を作らんとす如何なる裁ち方にすべきか圖解し之に各部寸法をメートルにて記入し併せて裏地(裾廻とも)何程を要するか。(北海道)
- 四 女物長襦袢の裁ち方數種を圖解し其の得失に就きて説明せよ。但し各々裁切り寸法を記入すべし。(熊本縣)

第六章 被布、コート、合羽、

第一節 被 布

一 幅一尺九寸長さ一丈三尺九寸の布を以て本裁女物被布を裁んとす。裁ち切寸法を堅衿下り六寸、袖丈一尺六寸五分とせば其の他は如何なる寸法になすべきか裁ち方圖に寸法を記入して説明せよ。(東京)

二 並幅の友禪縮緬にて袖丈七寸五分裁切の小裁元祿袖の被布を裁んとす。用布何程を要するか其の積り方及び裁ち方を問ふ。(東京)

第二節 コート

一 用布幅七十六糎丈五米十二糎にて本裁單衣コートを裁つべし。但し圖解中へ名稱寸法を記入せよ。(香川縣、富山縣)

二 幅七十五糎長さ五米四十五糎のセル地にて女物單衣コートの裁ち方を圖解し寸法を記入せよ但し仕立上袖丈六十糎、身丈一米三十糎。(静岡縣)

三 大幅縮セルを以て道行形衿長コートを裁縫するについて左の事項を記述しなさい。(秋田縣)

- 1 仕立上寸法(上着より伸縮するところ及其の寸法をも記載すること)

2 裁ち方圖解(裁切寸法用布の總尺)

四 仕立上袖丈一尺五寸、身丈三尺六寸の道行仕立單衣コートを仕立つるに用布大幅にて何程を要するか。(秋田縣)

五 二尺幅セル地を以て大人女物道行仕立てコートの裁ち方を圖解せよ。(静岡縣)

六 大幅セル(七十五糎幅)丈五米四十五糎にて女物單衣長コートの裁ち方及積り方を問ふ、但し仕立上寸法、身丈一米三十糎、袖丈六十糎とし肩上りの用布と其の裁ち方をも記せ。(茨城縣)

七 縮セル一丈四尺四寸を以て本裁女物コートを裁つべし。但し堅衿は全部續き物とすべし。(福井縣)

八 身丈一米六十糎の婦人の着用する單衣半コートを仕立てんとせば其の裁ち方及積り方如何。但し大幅セル地、四米九十糎、裁ち方圖及積り方算式を要す。(香川縣)

九 並幅二丈二尺(十米六十糎)の布にて本裁女半コートを裁つべし、但し袖裁切一尺六寸五分(六十五糎)とす裁ち方圖を示し積り方を記せ。右標付方を示し説明すべし。(鹿児島縣)

十 並幅物にて裁ちたる衿半コートの衿及堅衿の標付を記し圖解し寸法を記入して説明せよ(普通寸法に依りて)(東京府)

十一 本裁女物半コートを調製せんとす。次の事項に就きて記せ。(愛知県)

1 錦紗縮緬一反(三丈)にて表の裁ち方但し袖丈一尺五寸、身丈二尺七寸五分出来上り。

2 友禱羽二重右裏の裁ち方及用布何程を要するか其の積り方。

十二 二尺幅物にて女物半コートの裁ち方、仕立上身丈二尺八寸、袖丈一尺四寸とせば總丈何程を要するか。衿の形は各自隨意とす。右算式及圖解を示し各部の名稱寸法を記入すべし。

(滋賀縣)

第三節 合羽及事務服

一 本裁女物單衣合羽の衿の標付を圖解せよ。寸法は普通とす。(東京府)

二 セル地を以て本裁女物オーバ衿仕立て單衣合羽を作らんとす。裁ち方積り方を記せ。(愛知県)

三 並幅長さ十米六十纏の用布にて本裁女物單衣合羽(通行仕立)を裁つべし。裁ち方を圖解し各部寸法を記入せよ。(岐阜縣)

四 二尺幅セルを以て事務服の裁ち方を記せ。(愛知県)

第七章 袴

第一節 男 袴

一 男袴の縫方を文章にて書き表せ。但し地質は博多なり。(和歌山縣)

第二節 女 袴

一 羽二重と襦子類との腹合帯を仕立つるに當り注意すべき要點を記せ。(滋賀縣)

二 腹合帯(表縮緬 裏襦子)の仕立方を詳記せよ。(山梨縣)

三 紐又は紗の丸帯の仕立方を説明せよ。(山形縣)

四 紋羽二重と襦子との腹合帯の仕立方につき要項を簡單に列舉せよ。(佐賀縣)

五 絹丸帯の仕立方を問ふ。(香川縣)

第八章 袴

第一節 女 袴

一 女袴仕立上寸法割り出し方を問ふ。(青森縣)

二 用布幅七十六纏、長さ四米五十二纏にて本裁女袴の裁ち方を記せ。但し後布丈裁切一米二纏とす。(京都府)

三 メリンスを以て紐下九十纏に仕立上ぐべき女袴の裁ち方を圖解し用布積り方の算式を記せ。(静岡縣)

- 四 本裁女袴の後笹襲の折り方を圖解せよ。(静岡縣)
- 五 紺サージ(四幅物)五ヤールを以て大人女袴二着を作らんとす其の裁ち方を記せ。(静岡縣)
- 六 三尺幅カシミヤを以て五六歳用女袴二具を裁ち合せんとす、用布何程を要するか。裁ち方を圖解し積り方を記せ。(静岡縣)
- 七 三尺幅三ヤール三分の布にて女袴の裁ち方を圖解せよ。(秋田縣)
- 八 女袴の寸法割出し方を詳細に述べよ。(北海道)
- 九 本裁女袴の襲取り標付(前布及後布)を圖によりて説明すべし。(群馬縣)
- 十 地質カシミヤ及綾セルにて女袴の裁ち方を記せ。(佐賀縣)

第二節 男 袴

- 一 二尺幅セル地にて男袴無袴を裁つに二尺三寸の紐下とせば用布何程を要するか。圖解せよ。(秋田縣、愛知縣)
- 二 十番馬乘袴の襲取り方を圖解せよ(右足及左足)(奈良縣)
- 三 二尺幅の布を以て男袴の裁ち方及積り方を記せ。(愛知縣)
- 四 セル地本裁男物單衣(裁切寸法普通)を十番馬乘袴に仕立替んとするには如何にすべきか。

圖解して寸法を記入せよ。(愛知縣)

- 五 四米五十五糎のセル地にて本裁男袴無袴を裁ち其の普通仕立上げ寸法及割り出し方をも述べよ。但し紐下は八十三糎とす。(鳥取縣)
- 六 並物十米五十三糎にて十布遣男袴を裁合せ襲取方を簡単に圖解せよ尙十布遣の男袴の良否につき意見あらば併記せよ。(寸法はなるべく米突によるを可とす)(愛媛縣)
- 七 並幅の布を以て紐下八十五糎に仕立上ぐべき男袴の裁ち方を圖解し積り方算式を記せ。(神奈川縣)
- 八 二丈四尺五寸の袴地あり之を紐下二尺二寸五分の男袴を裁んとす。裁切り後丈何程となるか裁ち方圖を示し之に各部名稱並に裁切寸法を記入すべし。(長崎縣)
- 九 男袴を圖示し各部の名稱を記入し寸法の割り出し方を記せ。(和歌山縣)
- 十 十四五歳用男袴(襦有)の裁ち方積り方を記せ。但し圖解の中へ寸法を記入せよ。(富山縣)
- 十一 セル地七尺を以て八九歳用男袴を裁つべし。但し紐下は一尺五寸とす。(福井縣)
- 十二 男物單衣の古着一枚を以てなるべく大なる男子供袴を裁んとす其の方法如何。(鳥根縣)
- 十三 並幅長さ一丈二尺五寸の布を以て七八歳男兒袴を調製せんとす。左の事項につきて述べよ

- 一、裁ち方圖 二、各所の裁切寸法 三、後布縫付方。(大分縣)
- 十四 幅長さ一丈四尺にて十歳前後男兒袴を裁んとせば後丈何程となるか。其の積り方及裁ち方を圖解し且つ各部分の寸法を記せ。(東京)

第九章 下着類及簡單服

第一節 下着類

- 一 十歳女兒用ズロースの割出し方を問ふ。但し腰廻八十四纏、脇丈四十五纏。(熊本縣)
- 二 ウエストの裁ち方を圖解せよ。(東京府)
- 三 女兒洋服下着の種類と着用順序を記し其の種類の内何れか一枚を製圖せよ。但し身長一米二十纏とす。(香川縣)
- 四 十歳女兒胸圍取り寸六十纏五耗なる時普通洋服及コンビネーションを製作するに胸圍の弛みを何程にすればよろしいか。(静岡縣)
- 五 メートルの寸法に依りて十二三歳女兒用ズロースの裁ち方を圖解せよ。(静岡縣)
- 六 大幅フランネルにて十四五歳用ズロースの裁ち方を圖解し割り出し寸法方法を記せ。(静岡縣)
- 七 左のものにつき仕立上り圖を畫き簡單に説明すべし 1 シミ 2 プルマー 3 コンビネー

ション 4 ベテコート。(静岡縣、愛知縣)

- 八 女兒洋服の下着類につきて知れる所を記せ。(奈良縣)
- 九 用布幅七十六纏丈九十五纏を以て六七歳用女兒コンビネーションを裁つべし。(富山縣)
- 十 十二三歳女兒洋服下着の裁ち方縫ひ方を問ふ。(宮城縣)

第二節 簡單服

- 一 女兒洋服袖の裁ち方を記せ。(京都府)
- 二 女兒洋服胴及袖の原型割り出し方を圖解せよ。(静岡縣)
- 三 子供服袖の裁ち方を圖解せよ。但し丸袖 女兒の洋服を調製するに適當なる織物の名稱を問ふ。(奈良縣)
- 四 五六歳用男兒水兵服の上着を小倉地にて作らんとす。裁ち方圖をしるし之れに寸法を記入せよ。(北海道)
- 五 五六歳女兒服を裁縫するに當り次の事項を明記せよ。1 標準寸法 2 割り出し方 3 裁ち方圖及寸法。(新潟縣)
- 六 四五歳用女兒簡單服裁ち方圖を畫き各部寸法を記入し且つ縫ひ方順序に従ひ、縫ひ方を説明

- せよ。但し胸圍は五十種、メートル法を普通とす。(埼玉縣)
- 七 女兒洋服地夏向のものを五種を挙げよ。(埼玉縣)
- 八 女兒洋服袖元型の割出し方を詳細に圖解せよ。(千葉縣)
- 九 用布幅六十八種長さ一米三十六種にて五六歳用女兒服の裁ち方を示せ。(青森縣)
- 十 幅七十五種に布にて簡單服の裁ち方を圖解し各部の寸法をメートルにて記入せよ。イ年齢三四歳女兒
ロ形状隨意 ハ仕立上り圖隨意 (山口縣)
- 十一 四五歳女兒簡單服の形取り方を圖解せよ。(茨城縣)
- 十二 女子三歳用簡單服の裁ち方を圖解せよ。但し出來上り圖記入のこと。(石川縣)

第十章 帽子、エプロン、割烹前掛

第一節 帽子

- 一 簡單なる三四歳女兒の帽子の裁ち方を圖解し仕立上圖及地質も附記せよ。(長野縣)
- 二 頭圍五十四種一七(一尺四寸三分)ある小學校女兒の運動帽を作らんとす。キヤラコ何程を要するか其の裁ち方並に仕立方を圖解せよ。(奈良縣)

第二節 エプロン

- 一 六十種キヤラコ地にて小兒前掛(三四歳用)を裁ち並に仕立上り圖を示せ。(愛媛縣)
- 二 五六歳用エプロンの裁ち方を記せず法は米突にて記せ。但し形及び用布は隨意とす。(福島縣)
- 三 幅九十種長さ八十七種用布にて四五歳用前掛を裁つべし。裁ち方を圖解し各部寸法を記入すべし。(岐阜縣)

第三節 割烹前掛

- 一 大人用割烹前掛の仕立上圖を示し裁ち方をも圖解せよ。(京都府、愛知縣)

第十一章 シャツ、ツボン下及股引

第一節 シャツ、ツボン下

- 一 キヤラコ地を以て十一二歳男兒用運動シャツの裁ち方及積り方を示し總用布を求よ。(静岡縣)
- 二 大幅物を以て十歳前後の小兒用ツボン下を作らんに其の用布幾尺を要するか、裁ち方圖に其の寸法を記せ。(静岡縣)
- 三 二尺幅の白縮を以て身丈二尺五寸のシャツの裁ち方を記せ。(愛知縣)
- 四 大幅一丈一尺の布にて股下一尺八寸のズボン下と後丈二尺のシャツとを裁ち圖解して寸法を詳細に記入せよ。(長野縣)

- 五 尋常科三四學年の男兒に適當する運動シャツ及ツボン下の裁ち方を圖解せよ。(山形縣)
- 六 幅二尺長さ一丈七寸の用布にて大人シャツ、ツボン下を作らんとす。其の裁ち方を如何にすべしか、但し寸法隨意。(岩手縣)
- 七 用布幅七十六厘米にて本裁縫附ツボン下を裁つべし、但し圖解中へ名稱寸法を記入せよ。(富山縣)
- 八 キヤラコ地を以て七八歳用の運動シャツ並にツボン下の裁ち方を圖解し尙各々名稱寸法を記入せよ。(愛知縣)

第二節 股 引

- 1 單衣股引(地質紺木綿)の裁ち方及用布を記せ。

注意 裁ち方は凡て圖を畫き寸法を記入すべし。

- 2 二尺物四尺八寸の布にて女股引の裁ち方を記せ。(愛知縣、茨城縣)

第十二章 雜 題

第一節 ミシン

- 一 ミシン使用法につきて説明せよ。(静岡縣)

- 二 ミシンを使用するに當り初學者の心得べき點を擧げよ。(熊本縣)

第二節 標 付

- 一 袴羽織袴の標付方を圖解せよ。(京都府)
- 二 男物單衣羽織の前袴及袴の標付法。(鳥根縣)
- 三 左の標付方を記せ。1 被布小袴及整袴 2 單衣の類縁。(京都府)

第三節 整 理 法

- 一 1 衣服を裁縫するに當り地質(絹、綿、毛、交)の取り扱に就きて注意すべき事項を擧げ且つ其の理由を簡単に説明せよ。
- 2 絹布毛布麻布の各々に就きて地直しの方法を述べよ。(静岡縣)
- 二 次の布帛に就き裁つ前の整理法を述べよ。(愛知縣)
 - 1 秩父銘仙 2 綿襦子帯側 3 有松紋
- 三 左の布を以て衣服を調製するに當り特別なる取り扱ひ法あらば記せ。(静岡縣)
 - イ セルコート地 ロ 博多絞りの單衣地 ハ 金銀糸通しの帯地 ニ 絹の帯地

- 一 蒲團一ナガレを作るには表裏用布及綿は如何程入用なるか。詳細なる計算を記せ。(和歌山縣)
- 二 夜具を仕立つるに表地一反を用ひ仕立上寸法を袖丈一尺六寸、身丈五尺三寸とせば、裏用布何程を要するか。裁ち方圖及び積り方を記せ。(愛知縣)

第五節 脚 絆

- 一 幅三十四種 長さ七十六種の布にて山附脚絆の表裁ち方圖寸法を記せ。(紐不用)。(山梨縣)

第六節 雜 題

- 一 左の事項を説明せよ。(青森縣)
 - 1 素縫 2 馬乗 3 道行の袴
- 二 左の事項に就きて述べよ。(東京府)
 - 1 五つ紋 紋所の位置 2 五分批の襟形作製の方法圖解 3 一つ身袴普通仕立上寸法。
- 三 左の事項を説明せよ。(青森縣)
 - 乗間、色紙縫、道行袴、素縫、比翼、
- 四 次の事項に答へよ。(滋賀縣)
 - イ 一つ身、四つ身、本裁の前袴付及袴の標付方を圖解せよ。

ロ 本裁袴の袴付の距離最も近きものは如何なる點に注意すべきか。

- 五 左の事項を問ふ。(静岡縣)

イ 本裁羽織袴の裁切總丈の積り方。

ロ 大人紋下りの寸法。

- 六 左の事項を簡単に説明せよ。(静岡縣)

より袴 うば袴。コンビネーション。ブルマース。女兒洋服下着の着用順序。

- 七 左の間に圖解しなさい。(秋田縣)

1 單衣袴付の符針の打ち方

2 大人女袴の裾縫

- 八 次の事項に就きて記せ。(静岡縣)

イ 本裁紋下り寸法 ロ 並幅一丈にて裾廻の裁ち方 ハ 寄接ぎ

- 九 左の事項に就きて述べよ。(徳島縣)

1 五六歳女兒簡單服の總用布何程を要するか。

2 本裁男物普通仕立上げ寸法。

3 女物長着綿の分量。

10 普通並幅メヨンスは凡そ何尺なるか。(長野縣)

11 次の二項に就きて記せ。(千葉縣)

1 單衣裾先類縁の標付方を圖解して説明せよ。

2 本裁女物長着につきて左記仕立上標準寸法をメートル寸法にて記せ。
袴幅、袴肩明、袖口、後幅、裾。

12 左の事項を簡單に説明せよ。(山梨縣)

1 大紋腰袴 2 江戸褌模様 3 女兒洋服下着着方順序 4 コンビネーション。

13 左の事項を問ふ。(徳島縣)

イ 大人物の紋所の位置。

ロ 無垢二枚重に要する用布(但し下着廻裾とす)

ハ 肩揚 腰揚 紐付の位置。

14 左の事柄につきて知れるを記せ。(福井縣)

無垢、鬘斗目、小袖。

15 左の問に答へよ。(岡山縣)

女子通常禮服模様の種類を圖にて示せ。

男子通常禮服一揃を擧げて其の地質及價格の見積りを記せ。

16 次の事項につきて記せ。(愛知縣)

1 イ 婦人紋附模様の置き方の種別の稱呼三種以上。

ロ 五つ紋の位置。

ハ 地質。

2 友禪纏類を以て女兒禮着を作製せんとす。裁ち方積り方を記せ。

乙 實地試験問題集

三三三

一 1 本裁女物前襟(上前)普通寸法の二分の一

本裁女物綿入袖口の包み綿(實物大)

絹布鯨尺三分の裄(上前)

2 本裁男單衣羽織半身頃(二分の一)但し袖をもつること絹布鯨尺三分にて上前裄。

3 本裁女物比翼前身頃二分の一。

二種穴かぶり二個。(青森縣一時間)

二 絹布の裄上げ(五分裄)

女物綿入袖の作り方(寸法普通)

キヤラコにて左に示せる縫ひ方をせられよ。

1 釣圓の補綴 2 穴かぶり二個 3 千鳥 4 まつり衿 5 鏡の種類 (岩手縣、時間四時間)

三 胴廻(帯をしむる部)六十一種腰廻(臀部)八十種 丈(帯をしむる部と膝との間の長さ)四十七種 の女兒に着用せしむべきスロース(猿股)を作れ。(宮城縣)

四 1 與へられたる布を以て左右の綿入裄及び衿先を作りなさい。但し裄六分 衿廣衿

2 與へられたる布を以て綿入袖及び上前綿入三分裄を作りなさい。

3 與へられたる布を以て大人女物衿綿入重ね左袖を作れ。

4 與へられたる布を以て大人女物綿入半身を作れ(寸法實物の二分の一裄二分)

5 一つ身別衽元祿袖を裁縫しなさい。

6 綿入袖及上前三分裄綿入を作りなさい。但し袖は振を省きます。(秋田縣)

五 與へられたる小布を以て衿下前裄(裄一分五厘)を縫ふべし。

與へられたる白布を以て絹布本裁女物單衣右半身(但し二分の一の寸法)を裁縫すべし。

(群馬縣、時間四時間)

六 四つ身綿入の前身を縫ふべし。但し上前にて出裄三分とす。

與へられたる布を以て左の寸法に基き二分の一寸法の大人男袴を裁ち縫合せて疊付け迄をなせ但し縫合せ總合圖を備ふること。實物二分の一紐下二尺二寸。(千葉縣、時間三時五十分)

七 1 所持せる布にて女口綿入比翼の左袖及び二種裄の裄左右を裁縫せよ。

2 與へられたる紙にて八歳位の女兒の簡單服を製圖せよ。

三三三

3 所定の用布を以て筒袖の一つ身袷一枚を裁縫せよ。

但し仕立上寸法、袖丈二十一纏、身丈七十五纏、袖幅二十一纏、外普通とす。

4 並幅長さ八尺五寸の無地メリンスにて左記の仕立上寸法により一つ身袷筒袖の左半身を裁縫せよ。仕立上寸法、袖丈五寸、袖口三寸、衿下四寸、衿下り二寸五分、衿袖口五厘、襟口一分五厘。

袖幅の横より三寸裁ち落し、之れを衿とす。衿幅は半幅。

5 所定の布を以て本裁女物單衣半コート左半身を裁縫せよ、但し仕立上寸法左の如し。小袖幅及頸袖幅の寸法は實物大とし其他の寸法は二分の一とす。

6 所定の布にて四つ身羽織左半身を裁縫せよ。但し身丈二尺の仕立上りとし其他は普通寸法とす。

7 並幅長さ二丈一尺の無地木綿にて本裁男袷右半身を左の寸法により裁縫すべし。

仕立上寸法、袖丈一尺四寸、袖附一尺二寸、揚二寸、衿下り五寸、衿下五寸五分、衿一分五厘

(東京府)

八 1 イ穴かゞり一纏五耗のぬむり穴二個。口細縫方。出来上り一纏として二ヶ所へ縫縫

凡そ五十纏 ニ千鳥縫 凡そ三十纏。

2 口綿入袖を縫ふべし(右袖)袖口布を省く、袖口二十二纏、袖付二十三纏、丸み二纏(以上二時間)(神奈川縣)

九 與へられたる布にて女物袷半コート右半身を作れ但しポケット付三分の一縮尺のこと。

十 1 もみ並幅五米七十纏を以て四つ身袷(ふき綿)元衿袖上前半身を縫ふべし。(埼玉縣)

キヤラコ幅九十一纏、丈七十六纏を以て四五歳用子供エプロンを縫ふべし但しミシン使用。

準備 もす並幅、五米七十纏(一丈五尺) キヤラコ幅、九十一纏(二尺四寸) 丈 七十六纏

(二尺) 形紙二枚 綿少々。

2 左の縫ひ方を實習すべし。

出批一纏上前袷、袷右袖。

準備 白瓦斯、モス並幅二米六十六纏(凡そ七尺)綿少々。

3 七八歳用女児筒單服但し原型によりて製作すること。

白羽二重にて出批一纏半なる上前袷をつくること本裁男袴の腰立。(富山縣)

十一 與へられたる用布を以て本裁女物コート角衿上前を作れ。用布木綿織並幅七寸、糸黒木綿

約五尺。(福井縣、一時間三十分)

十二 本裁女羽織前身の縫ひ方(衿)寸法は普通とす。出衿二分の襷縫ひ方(上前)

材料 絹木綿、並幅一尺五寸、並幅一尺五寸、半幅五寸。

無地木綿 並幅一尺、半幅五寸。(石川縣)

十三 與へられたる布を以て一つ身綿入袖無羽織を裁縫せよ。但し前下り必要なし。紐の代りに乳を作ること。(山梨縣)

十四 1 與へられたる布を以て本裁男衿羽織の衿先を作れ。

2 與へられたる布を以て本裁女衿の左袖を作れ。

3 與へられたる布を以て本裁女物左前身頃を作れ。

4 與へられたる布を以て本裁男物單衣部分縫の揚及び衿先を作れ。

5 與へられたる布を以て女單衣左前身頃を作れ。

6 本裁女物口綿入袂袖を作れ。

本裁女衿羽織衿先を作れ。

7 與へられたる布を以て尋常科四學年に授くべき基礎的技術の各種を標本的に作れ。

與へられたる布を以て二分綿入襷左右を作れ。

8 與へられたる布を以て女衿の左袖口を作れ。

二三歳小兒エプロンを考案し與へられたる布を以て假縫せよ。

9 與へられたる布を以て本裁男衿羽織の衿先を作れ。

同 本裁女衿の左袖を作れ。

10 與へられたる布を以て本裁男單衣羽織の左半身(寸法二分の一)但し仕立上袖丈五十四
糎、身は一米二糎、(静岡縣)

十五 四五歳女兒の簡單なる洋服の縫方(形隨意)

堅衿一分裾裾三分の仕上げとなる額縁の襷を作り堅襷を千鳥掛になせ。

二つ折りとしたる一米の布にて一糎の間隔四糎の針目にて直線縫を五行縫。

與へられたる材料を自由に使用してよろしい。

材料 白縮大絹 一米五十糎、レース 七十五糎、テツブ 一米半、新モス並幅 一米、
白ガス糸赤ガス糸各一卷づゝ。(長野縣)

十六 1 半幅モス四尺の布を以て左前半身(一つ身)を裁縫せよ。

千鳥縫一尺、縹縫一尺、穴かどり三個。

2 與へられたる布(友禪新モス半幅四尺無地新モス半幅四尺一寸)を以て一つ身袷上前身頃を裁縫すべし(但し袷附に於て袷肩過も作る事)

與へられたる白布(白キヤラコ幅一尺二寸長さ一尺六寸)を以て涎掛を裁縫すべし(但しミシン使用のこと)

材料 友禪新モス 半幅四尺、無地新モス 半幅四尺一寸、白キヤラコ一尺二寸幅一尺六寸

カタン糸六十番。

3 白キヤラコ二尺にて四五歳のエプロンを作れ(一ヤール幅)

銘仙半幅三寸にて上前縹縫。

4 與へられたる布にて單衣合羽の盛袷附及道行仕立をなせ、用布にて左右一分五厘の襟を作れ(四時間)

5 大人腰板(男袴)但し上は、はらず、穴かどり(眠り穴)

6 與へられたる布を以て二三歳女兒簡單服を左圖の如き形につくれ。但し背明のところ穴かどり一個をなすべし。

材料 水色縮二尺幅三尺、六十番カタン糸一個。(愛知縣)

十七 與へられたる布にて大人男袴の腰立をなすべし。(岐阜縣)

十八 1 四つ身袷筒袖の縫ひ方(二時間五十分)

2 單衣羽織女物左半身(身頃のみ)を仕立つべし。

用布並幅九尺、地質瓦斯金巾新モス。

3 單衣羽織男物左半身を裁縫すべし。

用布白新モス 半反。(滋賀縣)

十九 1 與ふる材料を以て袷上前の襟を作れ。但し一纏襖とす。

與ふる材料を以て綿布接ぎ方三種をなせ。

一つ身單衣の半身頃を縫へ年齢三歳。

2 與ふる材料にて十歳男兒用袷上前身縫をなせ。但し仕立上 前身丈九十七釐(二尺五寸五分) 其他は後身とし寸法は普通とす。(三重縣)

二十 1 一つ身袷を裁縫すべし。

用布 紅木綿 並幅 凡六尺位
白木綿 並幅

2 男物單衣羽織左前身頃の部分縫をなすべし。

仕立上身丈二尺五寸(三時間)

3 ウエストを裁縫せよ。

但し胸圍、四十六纏、胴丈二十四纏、ボタンは糸標にて代用すべし。(京都府)

二十一 運針 男袴の腰立、子供服飾縫五種。(奈良縣)

二十二 與へられたる布を以て穴つぎをなすべし。

女袴羽織の衿附をなすべし但し、袋附寸法は普通のこと。(島根縣)

二十三 與へられたる布を裁ち男袴腰板部分縫を實物の寸法によりて作れ、但し腰板の附着する部分は隨意の大きさとなすべし。(鳥取縣)

二十四 與へられたる材料によりて男物衿先及裾を裁縫せよ、但し衿下七寸。(廣島縣)

二十五 各自用ブラスの裁縫をなせ。一センチメートル批兩棲の縫方。

注意 寸法は全部米突法によれ。(岡山縣)

二十六 1 ヘチマ衿仕立本裁單衣雨合羽の右半身(寸法二分の一)を仕立つべし、但しポケット袖口は必ず付けること。

2 本裁男物袴羽織左半身を仕立つべし。

但し寸法は 普通寸法の二分の一とし後幅は隨意とす。(徳島縣)

二十七 1 與へられたる絹布を以て運針本縫をすべし(五分)與へられたる用布にて大人用(男)肩當附シャツの衿附を裁縫すべし。

2 與へられたる用布にて絹布の補接及び單衣の襟先をなせ。(三時間) (香川縣)

二十八 1 女物前身頃半身及左袖(半幅)の裁縫をなすべし但し口綿入とし出批一纏半、衿下

二十纏(五寸三分)とす用布は裏表共に左の如く裁つを可とす。

準備すべきもの、

袖	衿
前身頃	衿
(100纏)	(90纏)

紅絹一九〇纏(凡五尺) 新モス並幅一九〇纏(凡五尺)
糸適宜裁縫用具

2 白絹にて基礎縫各種(赤糸)及補綴各種(白糸)を裁縫すべし。

キヤラコにて釦穴かがり三個(以上四時間)(愛媛縣)

二十九 1 新しき笹袴形のコート前上半身を裁縫せよ。

2 與へられたる用布を以て女兒八九歳運動兼用の洋服下着を裁縫せよ。(福岡縣)

三十 部分縫 本裁コート道行袴(上前)部分縫 一纏の上前袴。

四五歳用女兒洋服の仕立方、但し飾ミシンを要する所の大部は段縫となすべし。(佐賀縣)

三十一 本裁女物袴の右袖 但し袂丸五分、振は縫ふに及ばず。

白地用布の兩側に千鳥折並にマツリ縫をなすべし。

2 單衣合羽道行形の小袴付を作れ。キヤラコ地を以て穴かより二纏を示せ。但し穴明一纏半とす。(長崎縣)

三十二 與へられたる布を以て右左袴(二纏)の縫方。

絹布單衣袴先の額縁を縫ふべし。(熊本縣)

三十三 マツリ折五寸穴かがり二つをなすべし。(鹿児島縣)

三十四 絹木綿五米を以て男單衣半身頃の上前裁ち方及び仕立方(但し五纏の揚をなせ)

用布 絹木綿、並幅 五米(凡半反) 白木綿 半幅 一米(凡二尺六寸)(沖縄縣)

三十五 簡單なる女兒洋服下着、洋服穴かより、千鳥縫、まつたぐけ。(臺灣縣) (終り)

昭和三年二月十八日印刷
昭和三年二月二十日發行

小学校教員講習科 教育大意と裁縫教授法
正職員 北村常三
定價金壹圓五拾錢



著者 裁縫研究会

發行者 北村常三
東京市四谷區新宿町一丁目八十八番地

印刷者 福神和三
東京市京橋區南紺屋町四番地

發行所

東京市四谷區新宿町一ノ八八
振替口座東京 二七二三〇番

三友社

電話四谷三二二番

東京府立第五中學校教諭

吉木利光先生著

受驗前短期間に於ける
優 良 準 備 書 !!

問題 受驗界の化學

四六版洋
定價文三〇〇頁裝
送料金一圓三十錢

●編纂の方法 化學受驗準備の「ノート」として短期間の復習に最も効果あらしめんことを目的とし、最近二十年間の高等、専門諸學校入學試驗問題の殆どすべてを集め、之を整理分類して化學的の體系を與へたもので、すべては問題であるが、其の問題の内容を綴れば即ち化學教科書に異ならないのである。従つて問題の解き方に習熟すると同時に化學の内容を十分に理會し整理することが出来る様に編纂してある。

●問題の説明 初めに基本問題を掲げて其の解き方を示し次に類似問題(學校名掲載)を掲げて一々其の解き方を添へてある。

●本書の特色 以上二項は本書の最大特色とする所であるが、叙述の簡明にして最も要領を得たるは他に比類なき所である。

目次

- 第一編 總論 (1分子量、原子量、2氣體の體積と溫度及壓力、3化學式、4化學方程式、5術語及定律)
- 第二編 非金屬
- 第三編 金屬
- 第四編 有機化合物 (1炭化水素、2アルコール、エーテル、アルデヒド、3有機酸、油脂、4炭化物、5ベンゼン、6有機化合物)
- 第五編 總括 (1原料、成分、用途、2雜問)

最新刊

實力 受驗界の新制物理 (下卷)

定價金一圓二十錢
送料 金八錢

理學博士 小野田忠先生監修 東京府立第八中學校教諭 古田兵衛先生著

- 【一】目的 本書は高等學校及専門諸學校に入學すべき學生諸君の受驗準備たらしめることを目的として編纂したものであるが、専檢受驗者及小學校教員檢定受驗者の參考書ともなる様に注意してある。
- 【二】材料 中學校の新制物理教授要目に準據して之を選定し、尙ほ教科書に於て比較的力説せられざる所にして、しかも重要な事項や誤解し易き部分につきては、或は新に「節」の項を立て、或は「注意」の欄を設けて之を敷衍し、力めて其の意義の徹底を計つてある。
- 【三】叙述 平易簡明を旨とし、又多くの圖を挿入してあくまでも要領を得せしめ理解と記憶を容易ならしめる様に注意してある。
- 【四】問題 章末に較近十五年間に於ける高等學校及専門諸學校等の試験問題を漏れなく掲げ尙ほ同一問題と雖も一々年度、校名を列舉してある。是等の問題はいづれも重要問題にして今後屢々提出さるべき可能性あるものであるからである。
- 【五】解答 これは本文の叙述と共に著者の大に意を用ひたる所にして、圖示の必要あるものには悉く簡明の圖を掲げ、問題の解答には其の要點を簡潔に記述して答案起草の模範たらしめる様に努めてある。
- 【六】叙述の簡明にして要領を得たるものは他に比類がないと云ふも敢て過言ではあらまい。

駿河臺高等豫備校講師 瀨尾徹先生著

最新刊

實力養成

受験界の代數

四六版四百十四頁
挿圖二十餘圖
定價金壹圓三十錢
送料金十錢

●目的 本書は高等學校專門學校及專檢受験者等の參考に供する目的を以て編纂したものである。

●組織 代數的數の加減乗除の規則より代數學全般に亘りて既習事項の要領を補習することを得ると共に現に學習しつゝある事項の了解を容易ならしめるやうに仕組んである。

●講義 丁寧親切にして理解し易きは勿論、苟も受験上の參考となるべき事項は細大漏らさず記載してある。これ著者が多年に亘れる受験生指導の體驗を惜しげも披瀝したもので、寔に得がたい講義である。

●例題と問題 主として當該學校最近五年間の試験問題中より代表的の問題を選定し、問題中例題に做つて解き得るものは解方を略して答のみを掲げ、否らざるものは其の問題の難易に應じて一々簡明若くは詳密の解答を附してある。

●之を要するに本書の如く講義の親切にして正確なるものは他に其の類を見ざる所である。

瀨尾徹先生著

好評劇甚

忽ち六版

六版

分り易い 中等一、二年の代數

四六版 洋裝
本文四七〇頁
定價金壹圓九十錢
送料金十二錢

●本書は尋常小學校卒業程度の方ある人ならば誰れでもよく理解し得る様にやさしく書いたもので、始めて代數を學ぶ人々には最も必要な本であります。今般普及のため

上卷

定價金八十錢
送料金八錢

下卷

定價金九十錢
送料金八錢

に分ちて發行しましたから代數がワカラナイで困つて居る諸君は一刻も早く、お求めあれ。

本多吉雄先生著

再版

自學自習
受験參考

代數學重要の解き方

四六版 洋裝
本文四二二頁
定價金四圓
送料金十二錢

●本書は剩餘定理より對數に至る迄の問題(入學問題及教科書中の問題)千三百餘題を系統的に排列して簡明なる解答を與へ尙類似の問題を添へて練習の便を圖りてあるから此の本一冊をよく研究すれば高等學校、專門學校等の受験生諸君はキット及第の榮冠を戴くことが出來ると信じます

橋本辰彦先生の二名著名

自學自習 中學參考 趣味の日本歴史

上 各卷 四六版洋装
下 各卷 紙敷四八〇頁
定價 金十二錢
送料 金十二錢

上巻十六版 神代より鎌倉まで 附録（年表、皇室及諸家系圖）
下巻十四版 徳川家康より世界大戦後の諸問題まで 附録（年表系圖）

【一】首尾一貫せる科學的歴史の體系を備へてゐる。【二】内容が豊富である。【三】文章が明快平易で頗る趣味に富んでゐる。【四】各章毎に練習問題高等學校専門學校試験問題考察問題を挿入し記憶に至便なる表解をも添へてゐる。

自學自習 中學參考 趣味の西洋歴史

上 各卷 定價各貳
下 各卷 送料各金十二錢

上巻 上古—中古—近古—各年表—挿繪—二六一四六版洋装—五〇〇頁
下巻 近世—世界大戦及其後—各年表—挿繪—二六一四六版洋装—四五〇頁

【一】史實を精選して嚴正な價值批判を與へたもので、徒らに事實を列擧したツマラナイものとは大に趣が違つてゐる。【二】内容豊富紙敷多大。【三】叙述整然文章雄渾にして頗る趣味に富み、【四】理解記憶に便なる表解と入學試験問題及考察問題を多く挿入して歴史的眼光を養ふことを努めてゐる。【五】「趣味の日本歴史」と共に中等學生受験學生諸君唯一の参考書及中等教員諸賢の教案にも適當である。

角田政治、橋本辰彦先生共著

好評二十八版

改訂 中等參考 趣味の日本地理

四六版洋装
定價 金四八〇頁
送料 金十二錢

【一】豊富なる材料を科學的に、しかも平易に面白く叙述してゐるから、何人も自學自習の間に知らず識らず眞の地理學を學ぶことが出来る。

【二】地理教科書及地理參考書は概ね無味乾燥にして、殆ど讀むかむまうであるが、本書は趣味の方面に力をを用ひ、讀者をして津々たる趣味を賞玩しながら眞の地理學を學び得られるようにしてゐる。

角田政治先生著

好評十五版

自學自習 中等參考 趣味の世界地理

上 定價 一圓六十錢
下 定價 十圓
送料 金十二錢

【一】本書は「改訂中等參考趣味の日本地理」の姉妹篇にして、それと同様に獨特の光彩を放つてゐる。

【二】材料精確にして豊富、大戦後の世界の勢は言ふに及ばず、最近に最ける兩極探検、横有恒氏の加奈陀アリアルタ山の探検までも詳に説明してゐる。

【三】高等學校専門學校試験問題練習問題考察問題を多く載せ、文後問題までも擧げてゐる。【四】故に趣味の日本地理と共に中等學生受験學生及初等教員諸賢の良參考書として敢て推薦する。

石塚好忠先生著

自習及 受驗用 漢文の解釋と文法

四版 六冊 洋裝
定價 金四圓八二
送料 金一圓五十錢

- 【一】本書は漢文參考書として、鶏群中の一鶴なりとの定評あるもので材料は著名な漢籍及高等學校、専門諸學校等の試験問題より選定してある。
- 【二】解釋は白文・訓點・讀方・大意・通解・語解・參考・句法の各項に分ちて丁寧親切に説明し、以て解釋の模範を示してある。
- 【三】文法篇に於ては前出句法を統一して文法を説明し、以て漢文讀解の要訣を示してある。

東京高等師範學校講師 小野田忠先生監修
東京府立第八中學校教諭 古田兵衛先生著

自習及 受驗用 化學の講義と問題 中學三 四年用

四版 六冊 洋裝
定價 金三圓八〇
送料 金一圓九十錢

- 【一】中學三四年迄の要目に準據し非金屬より金屬までを整理敷衍し全卷適當に配列してある。
- 【二】講義は必要な事を明瞭簡單に分かり易く述べてある。
- 【三】問題は最近二十年間に於ける各種高等程度諸學校の入學試験問題を集め之を系統的に整理して各章の終りに排列し、又著者の工夫した模範試験問題をも掲げてある。
- 【四】計算問題は最初に例を擧げて模範的解法を示し然る後數多の練習問題を提出してある。



